

令和元年度  
全国学力・学習状況調査および佐賀県学習状況調査の  
分析結果と今後の取り組みについて

令和元年8月 小城市立桜岡小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年 国語・算数）並びに、佐賀県学習状況調査（5年 国語・算数）の結果をお知らせします。

5年の国語・算数、6年の国語・算数の全体の正答率は、県平均とほぼ同じです。

5年生の正答率を同一児童での比較（同じ児童の平成30年度12月実施との比較）をすると県平均とほぼ同じ結果を維持しています。国語では、平成30年度12月の調査結果（4年生の時）とほぼ変わらない結果で、算数では、結果に伸びが見られ、改善傾向にあります。算数については、基本的な知識・理解で向上が見られ、技能や思考・表現に課題が見られます。筋道を立てて、論理的に思考することを苦手としているようです。5年生、6年生ともに、国語・算数での記述式の問題で、無回答率が高い傾向が見られました。

今回の結果を詳しく分析して具体的な手立てや指導方法をさらに工夫し、今後の指導充実を図っていきます。また、同時に行われた「意識調査」の結果では、昨年度と比べて改善が見られた項目も多くありましたが、「将来の夢や目標を持っている」の質問項目が低い値を示しています。自分の良いところに目は向いているものの、将来の夢や目標を持つまでには至っていないので、色々なことに挑戦させ成功体験を積み重ねて、自信をつけさせたいと考えています。今年度、改善を要する項目においてご家庭での協力をお願いしなければならない点もありますので、個人懇談の時にお渡ししました結果をご家庭でも今一度ご覧になり、日々の家庭学習や家庭生活での声かけやアドバイスの一助としていただければと考えています。

## ◆学力・学習状況調査から

《 5年生 国語科 》※「十分達成」「おおむね達成」は国が示した到達基準（期待正答率）です。

### 全体の概要

- ・全体の正答率は県平均とほぼ同じであった。
- ・観点別目標到達で見ると、「読む」以外は、「おおむね達成」であった。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正答率は県平均とほぼ同じであった。</li> <li>・学級会の話し合いで発言のよさや、ねらいを見極める力は付いている。</li> <li>・自分の考えを条件に合わせて、話す力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活の中で、条件を与えたスピーチをする機会を設け、実践的な力を付けていく。</li> <li>○国語の授業や、学級会では一人ひとりに考えを持たせる手立てを仕組み、話す経験を積みませ、聞く力を養うようにさせる。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正答率は全て「おおむね達成」であった。</li> <li>・文末表現の常体を敬体に直す力がやや不足している。</li> <li>・メモを手がかりにして条件に合わせて記事を書く力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章表現への苦手意識を減らすため、感想や要約など文章を書く活動を多くし、書き慣れさせていく。</li> <li>○伝えたいことを明確にして、書く経験を積みませせていく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正答率は、県平均とほぼ同じであるが、「要努力」が多い。</li> <li>・文章全体の内容と構成を捉える力に課題がある。</li> <li>・登場人物の気持ちを捉え、それを他者の目線で表現する力に課題がある。この問いは、無回答率が32.9と一番高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する力を高める必要がある。</li> <li>○普段の読書週間を見直したり、長文の読解に慣れさせたりして、スキルアップを図る。</li> </ul>
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「漢字の読み」「語句に関する知識」は県平均と同じであったが「漢字の書き」は県平均を下回り、「要努力」の範囲である。</li> <li>・文の中の主語を捉える力が不十分である。</li> <li>・ローマ字の問いが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字やローマ字、主語・述語の小テストを定期的実施し、文や文章の中で使う事が出来るよう指導する。</li> <li>○国語辞典を引き続き活用させ、語彙に親しませていく。</li> </ul>

◆学力・学習状況調査から

《5年生 算数科》※「十分達成」「おおむね達成」は国が示した到達基準（期待正答率）です。

全体の概要

- ・全体の正答率は、県平均とほぼ同じであった。
- ・到達基準の「おおむね達成」は上回っていたが、27問中4問が「十分達成」を満たしているものの、7問「おおむね達成」に届かず、問題解決の見通しが付いていないため、解決の途中で回答を終えていると考えられる。
- ・県に比べ、全体的に無回答率が高かった。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・理解 数量や図形の	<p>○正答率は県平均とほぼ同じであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面積の求め方は分かっているが、長さの感覚が身に付いていなかったため、正答率が低くなった。（郵便はがきの長さになじみがない）</li> <li>・計算の決まりの理解がよく分かっていない。</li> </ul>	<p>○計算のきまりを使った課題に数多く取り組ませることで、定着を図る。</p>
数量や図形についての技能	<p>○正答率は県平均とほぼ同じであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位の換算が分かっていない。</li> </ul>	<p>○問題文を読むときに、アンダーラインなどを引かせ、よく読む習慣をつけさせることに取り組む。</p>
数学的な考え方	<p>○正答率は県平均とほぼ同じであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文の読み取りが不十分なため、問題の理解が低い児童が多い。</li> </ul>	<p>○問題の形式に慣れさせ、数多く取り組ませる。</p>

## ◆学力・学習状況調査から

《 6年生 国語科 》※「十分達成」「おおむね達成」は国が示した到達基準（期待正答率）です。

### 全体の概要

- ・全校の正答率は、県平均とほぼ同じだった。
- ・「書くこと」は、54.4%で、「言語事項」は52.1%と低い値だった。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
話すこと・聞くこと	<p>○正答率は県平均とほぼ同じだった。</p> <p>・目的に応じて質問を工夫する、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることは、やや上回っていた。話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることは、ほぼ同じであった。</p>	<p>○教科書の「話すこと・聞くこと」の単元を中心に、話し手の意図をくみ取って、自分の理解を確認するための質問をするなどのスキルを積ませる。また、授業の「二人でタイム」を充実させ、コミュニケーション能力の向上を図る。</p>
書くこと	<p>○正答率は県平均とほぼ同じだった。</p> <p>・しかし、図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題については、県平均をやや下回っていた。相手にわかりやすく伝える記述や目的や意図に応じて自分の考えをまとめて書くことについては、県平均とほぼ同じであった。</p>	<p>○示されている資料についての目的や使い方についての学習を充実させる。全体の文章がどのような構成なのかを大きく捉える力をつけさせるために、授業の中で文章を読むときに文章構成について意識を高めていくことが大切である。条件が複数になるほど無回答や条件全てを満たすという意識の無さが多くなっているので、問題に慣れさせ、問題を丁寧に見取る力が必要である。</p>
読むこと	<p>○正答率は県平均とほぼ同じだった。</p> <p>・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを的確にしながら読む、目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことは、ほぼ同じであった。</p>	<p>○条件に合わせて書く活動を授業の説明文の読み取りの中に取り入れる。情報の収集の仕方として読書や新聞を読むなど、数多くの経験を積ませる。目的に応じて本や文章を選択する機会を授業の中で仕組んでいく。</p>
言語事項	<p>○正答率は県平均とほぼ同じだった。</p> <p>・同音異義の漢字を文の中で正しく使う問題とことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題については、県平均とほぼ同じであった。</p> <p>・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題については、県平均を下回っていた。</p>	<p>○漢字を単元毎に練習するばかりでなく、同音異義語や対義語、類義語などのカテゴリー別に学習する時間を持ち、自学などで漢字の力を付けさせていく。長い問題文の趣旨を正しく見極め、どのようなことを書けばいいのか理解する力が必要である。そのためには、日常の授業の中で、問題文で何が求められているかを考える機会を増やすことが大切である。</p>

## ◆学力・学習状況調査から

《6年生 算数科》※「十分達成」「おおむね達成」は国が示した到達基準（期待正答率）です。

### 全体の概要

- ・全体の正答率は、県平均とほぼ同じになっている。
- ・14問中12問は正答率が全国・県平均を超えており、引き続き既習内容の再確認を行い、学習を進めていく。

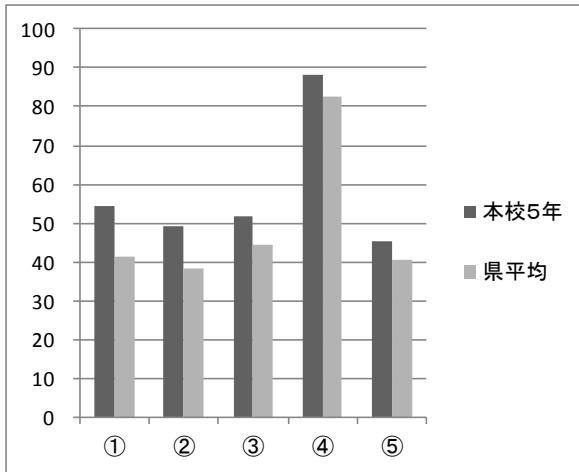
	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・理解 数量や図形の	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県平均をやや下回った。</li> <li>・示された除法の意味を理解していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査内容を基に既習内容の習熟を図っていく。</li> <li>○3年次に学んだ除法の意味が高学年の小数の学習でも使えるということを再確認する。</li> </ul>
の技能 数量や図形について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県平均をやや上回った。</li> <li>・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることがやや不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計算技能を向上させるためスモールステップで継続して練習させることが必要である。</li> </ul>
数学的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県平均をやや上回った。</li> <li>・筋道を立てて論理的思考をすることが苦手である。</li> <li>・目的に適した、伴って変わる二つの数量を見いだすことができることがやや不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○わり算の意味について再確認する。</li> <li>○定理や公式の成り立ちについてスモールステップで何度も反復させながら学習することが必要である。</li> <li>○問題文に丸囲みや下線や波線を引くことを徹底させ、文意を正しく読み取らせる。</li> <li>○じっくりと問題を読む習慣をつけさせる。</li> </ul>

◆生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

《5年意識調査》

【数値が特に高かった項目】

	調査の項目
①	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている。
②	国語の授業の内容はよくわかる。
③	今住んでいる地域の行事に参加している。
④	朝食を毎日食べている。
⑤	算数の勉強は好きだ。

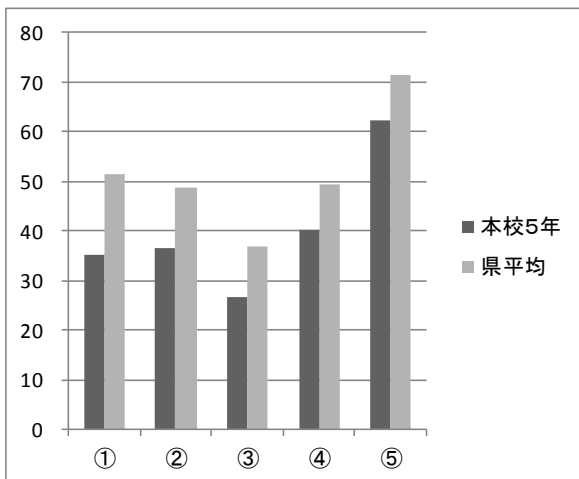


【分析と取組】

①の結果から、本校の平日ゲーム禁止のルールが浸透していることが考えられる。  
 ②の結果から、昨年度の校内研修の教科でもあり、成果が上がってきていると考えられる。  
 ③の結果から、地域や家庭の協力のもと、児童が地域住民の一人として、地域に進んで関わろうとしていることが考えられる。  
 ④の結果から、朝食アンケートや生活点検表をもとに日ごろから児童へ声かけをしていることが成果に上がっていると考えられる。  
 ⑤の結果から、算数の学習が好きと答えた児童は70%程度、算数の学習内容をわかっていると答えた児童が80%程度いることから、算数の学習に前向きに取り組んでいることが分かる。

【数値が特に低かった項目】

	調査の項目
①	学校に行くのは楽しいと思う。
②	社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている。
③	友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができている。
④	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
⑤	将来の夢や目標を持っている。



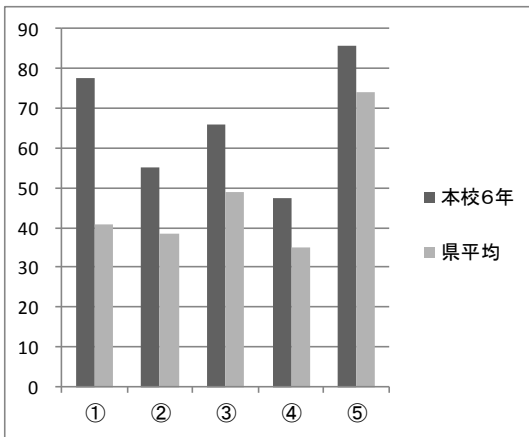
【分析と取組】

①の結果から、「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童を合わせると県平均とほぼ同じであるが、自信をもって楽しいと答えられないところに、何か学校生活や人間関係などに気になるところを抱えている児童がいることが考えられる。支持的風土の構築を引き続き図り、一人ひとりの児童を見守っていく。  
 ②の結果から、修学旅行の自動車工場見学を活用し、調べ方やまとめの方の手順をスモールステップで教え、抵抗なく進んで取り組めるように工夫する。また、調べ学習の機会を増やし、自信を持って取り組めるようにする。  
 ③④の結果から、話し合い活動の中で、児童が実際に相手の考えを聞いてよかったと感じる場面が少ないと考えられるので、話し合いの場面では、聞く視点を与えどのポイントで聞けばよいかをはっきりさせる。  
 ⑤の結果から、学校生活の様々な場面で、自分のなりの目標をたて、それに向かって頑張ることで、自信をつけたり、自分の個性やよさに気付かせたりさせる経験をたくさん積みませる。そこから、自己肯定感や学校の楽しさへの意欲につなげていきたい。

《6年意識調査》

【数値が特に高かった項目】

	調査の項目
①	5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICTにどの程度使用しましたか
②	国語の授業の内容はよく分かる
③	算数の授業の内容はよく分かる
④	自分にはよいところがあると思う
⑤	算数の勉強は大切だと思う

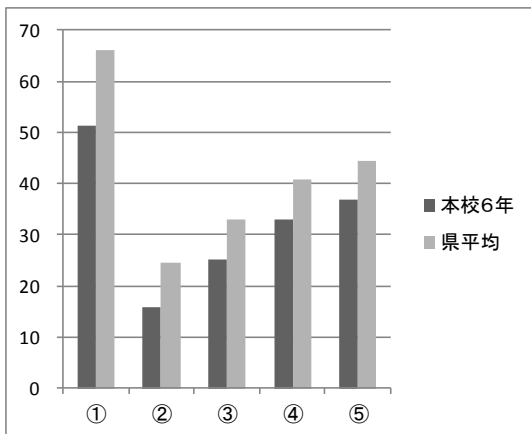


【分析と取組】

①授業で日常的に電子黒板やデジタル教科書を使用して、児童の興味・関心を高める工夫を継続していきたい。  
 ②③一昨年まで算数の校内研究で取り組んでいた桜岡スタイルという学習の流れが算数だけでなく国語でも有効で、児童にとって分かりやすい授業であったと考えられる。  
 ④継続してエンカウンターを取り入れた授業を行ったことで、自己肯定感が育まれていったと考えられる。  
 ⑤生活場面により近い課題を出したことで、算数の必要性を感じたと考えられる。

【数値が特に低かった項目】

	調査の項目
①	将来の夢や目標を持っている
②	総合的な学習の時間で自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる
③	難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している
④	外国の人と友達になったり外国のことについてもっと知りたい
⑤	学級みんなで話し合っ決めてことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある



【分析と取組】

①③自分のよいところには向いているが、将来の夢や目標を持つまでにはいたっていない。自分には何が出来るか、何が向いているか悩んでいる児童もいる。いろいろなことに挑戦させ、成功体験を重ね自信をつけさせていきたい。  
 ②5年生の総合の学習内容が情報を集めて調べたことを発表するというより、体験活動が多かった。6年生では、課題探求の学習も多いので改善が見込まれる。  
 ④外国の人との交流も少ない。また、自分に自信がないことで外国語を話そうという意識につながらない。外国語の授業を充実させたり、社会科や道徳などの他教科でも国際理解を進めていきたい。  
 ⑤学級みんなで話し合う機会を多くしたり、行事などで一人一人に出番をつくらうことで、達成感を味わわせていきたい。